

令和元年度第3回子ども・子育て会議での第2期松戸市子ども総合計画（案）に対する意見について

施策の体系		委員の意見	事務局対応
I 子どもの力：子どもの権利が尊重され、心豊かに育つことができる		「子ども力」をもう少し具体的な言葉、事業を行う上での行動の指針にしていけないか。「子ども力」というと、私は「子どもの権利」を思い描く。「子どもの権利」で一番大切なのは、自由と失敗する権利である。支援者は支えを必要とする子どもを必ずキャッチして、その子どもの力を信じて自立を応援していくのが、一番大事なところである。どれだけ慌てないで、じっくり、着実に、あきらめずに、繰り返し支援ができるかということ職員や保護者の方にも伝えている。（百田委員）	p38「計画策定の視点」に「子ども主体の実現」を追記しました。 またp41「基本理念」の文章においても「子どもが本来持っている力を最大限に発揮するため、本市で、全ての子どもの最善の利益を尊重し…」という文章を追記するとともに、児童福祉法の理念についても追記しました。
基本施策1 乳幼児期から心豊かに成長できる			
施策1-1	乳幼児期から多様な体験ができる環境を提供する		
施策1-2	乳幼児期の教育・保育を充実させる	保育士不足が課題である。最近では保育士の虐待等の報道も目にするため、質も高めていかなければならない。ベテランの保育士が若い保育士を育てていく関係をつくっていくと、市と協力して取り組んでいる。（知久委員）	p51事業No.14「保育士の研修体制の充実」を追記しました。
施策1-3	幼稚園・保育所（園）・小学校との連携を推進する	現在幼稚園・保育所・小学校を結びつける活動をいくつか行っており、このようなことが松戸市の様々な地区で進められることで、つながりが深まり、子どもの力がつながっていくのではないかと強く思っている。（奥藤委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
		保育園側と小学校側で互いにどのような生活をしているのか、見学も含めて幼稚園や小学校と連携していけるとよい。（知久委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
		放課後児童クラブも視野に入れていただきたい。実態としては、保育所（園）、幼稚園、小学校から情報の共有・連携はしており、特に保育所（園）の生活の場面を引き継ぐのは放課後児童クラブである。（百田委員）	p53事業No.20「幼保小の関係職員による情報交換」に、事業内容を一部修正するとともに、今後の施策の中で検討して参ります。
		特別支援学校、児童発達（支援）は、含まれていますか。含まれていないかについてもいいますか。（意見票、荻野委員）	
基本施策2 青少年が生きる力を育むことができる			
施策2-1	新・放課後子ども総合プランを推進する		
施策2-2	地域における子どもの居場所を整備する	複合施設において、防災教育を学べ体験できるとよいのではないかと。矢切特別支援学校では気象庁と連携をして、気象学や天気学について、主体的に興味を持って勉強しているのが印象的であった。（松崎委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
施策2-3	青少年に多様な体験や交流・学びの機会を提供する	中高生の居場所づくりについて周知が難しく、不登校を経験した子どもからすれば、居場所へ出ていくことも大変で中学生・高校生となると、誰がどのようにサポートしていくかが大事になる。どこにも居場所がない子どもや不安を感じる保護者を救える施策が充実していくため、サポートできる人材が松戸市に増えていくとよい（奈賀委員）	p57事業No.32「青少年の支援に関わる人材の育成」や事業No.37「子ども・若者の総合的な支援体制の整備」を追記しました。
基本施策3 さまざまな課題や困難を抱える子ども・若者を支援する			
施策3-1	子どもの不安や悩みを解消する		
施策3-2	障害や発達の不安などを抱える子どもの自立を支援する		
基本施策4 全ての子どもの権利が尊重される			
施策4-1	子どもが参画できる機会を充実させる		
施策4-2	児童虐待の予防・防止対策を推進する		
施策4-3	子どもの未来応援（貧困対策）を推進する		
施策4-3	外国籍の子どもへの支援を充実させる	外国籍の子どもたちは家では母国語、学校では日本語を話しており、日本語は話せるが意味をしっかりと理解できていない子どもが増えている。こうした子どものサポートをどうしていくのかという取組みを、NPO団体の活動で行っている。（千石委員）	p78事業No95「日本語教室」を追記するとともに、その他の事業についても、一部記載内容を修正しています。

令和元年度第3回子ども・子育て会議での第2期松戸市子ども総合計画（案）に対する意見について

施策の体系		委員の意見	事務局対応
II 家庭の力 家庭の子育て力が向上し、安心して子育てができる			
基本施策5 妊娠・出産期から安心して子どもを産み育てられる			
施策5-1	安心して妊娠・出産できる支援体制を充実させる	産後うつやワンオペ育児等の支援に対し、使いやすい制度や仕組みをつくってほしいと思う。（石垣委員）	p83コラム「産後ケア」を追加するとともに、貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
施策5-2	親子の健康づくりを推進する	小学校でもフッ化物洗口を行っていくための協力を仰ぎたい。（小松委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
		松戸歯科医師会のフッ化物洗口によって、子どもたちのむし歯予防に効果が出ていると聞く。新しくよいものは、積極的に取り入れていかなければならない。（知久委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
施策5-3	妊娠期から出産、子育てまでの医療体制を充実させる		
基本施策6 家庭の孤立や不安が解消される			
施策6-1	子どもの育ちについて学ぶ機会を提供する		
施策6-2	親子のコミュニケーションを育む機会を提供する		
施策6-3	出産や子育てに関する情報発信を充実させる		
施策6-4	家族が協力して育児ができるよう支援する	最近相談を受けるなかで、ちょっとしたことで離婚するということが増えてきたと思う。おやこDE広場で子育てコーディネーターに取り組む中で、一歩間違ったら虐待になりそうな家庭がたくさんある。家庭への支援について「予防」という視点を持ってほしい。（石田委員）	p38「計画策定の視点」に「予防的支援の推進」を追記しました。
基本施策7 子育ての充実感を持つことができる			
施策7-1	妊娠・出産・育児に関する相談を充実させる		
施策7-2	多様な保育ニーズに対応できる地域子育て支援の充実		
施策7-3	就労支援を推進する		
基本施策8 多様な課題への支援により、全ての家庭が安心して子育て			
		障害者に対する医療の充実が必要だと感じる。（小松委員）	貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
施策8-1	生活基盤の安定のために経済的な支援を推進する		
施策8-2	ひとり親家庭への支援を推進する		
施策8-3	外国籍の家庭への支援を推進する	外国籍の方も松戸市に入ってきたら、松戸市民である。そのため、松戸市全体の施策の中にも、多言語ということを意識するべきである。（千石委員）	p108事業No.169「外国人相談」等、掲載事業を追加するとともに、その他事業についても、一部記載内容を修正しています。
施策8-4	障害や発達不安などを抱える子どもの家庭を支援する		

令和元年度第3回子ども・子育て会議での第2期松戸市子ども総合計画（案）に対する意見について

施策の体系		委員の意見	事務局対応
Ⅲ地域の力 地域の特色と活力を活かし、子どもと家庭を支える		社会福祉協議会は、市内には15の地区社会福祉協議会があり多くはふれあい広場として子どもから高齢者までが自由に参加できる場をつくっている。また子ども食堂についてはあらゆる子どもたちがそこに集い、大人も子どもも交流しながら、ひとときを過ごしている。それを支持する方たちがどんどん増えており、松戸市社会福祉協議会も、参画する人・団体を巻き込んで進めていきたい。（文入委員）	p38「計画策定の視点」に「多様な主体の参加と連携」という項目を追記するとともに、貴重な意見として今後の事業展開の中で参考にさせていただきます。
基本施策9 子どもと子育て家庭が安全に安心して暮らせる			
施策9-1	安全対策や防災対策を強化する	台風などの際に親子が安心して自宅で待機できる避難の形があったらよいと思う。避難所では子ども、高齢者、病人などが共に過ごすことになるので、お互いに迷惑のかわらないように整備されるとよいと思う。（山口委員） 年々災害も大型化している。災害の状況を把握し保育園が子どもたちの安全をどのように守っていくかという点について、市と一緒に取り組んでいかなければならない。（知久委員）	掲載事業の追加及び内容の修正をいたしました。
施策9-2	親子が安心して外出できる環境を整備する		
基本施策10 子どもたちが地域でいきいきと成長できる		子ども会の加入率が年々低下し現在では加入率は14%台まで下がってきている。子ども会は、学校とは違った縦のつながりがあるが、加入しないという保護者の意見も多く、なかなか厳しい状況である。子ども会について色々な形で情報を公開して、地域を活性化していく意味で今後も協力していきたい。（坂委員）	p38「計画策定の視点」に「多様な主体の参加と連携」という項目を追記しました。
施策10-1	子どもが地域で交流できる機会を増やす		
施策10-2	青少年が社会にかかわる機会を増やす		
基本施策11 子どもと子育て家庭に関わるネットワークを充実させる			
施策11-1	地域で子ども・子育て支援に関わる個人・団体との連携を強化する		
施策11-2	地域の人子どもに関わる機会を増やす		
基本施策12 子どもと子育て家庭を地域全体で応援する		学校だけではできないことは、地域の力を借りて色々な方と結びついて情報交換をすることが必要と思っている。（奥堂委員）	p38「計画策定の視点」に「多様な主体の参加と連携」という項目を追記しました。
施策12-1	企業や学校等との連携を推進する		
施策12-2	子どもや子育て家庭に関心を持つ人たちを増やす		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所などの身近なところで市民からの小さな声を吸い上げてくれる場が欲しい。（天田委員） ・スピード感が重要だということである。小さな声をくみ取って、それを速やかに実行できるような施策があるとよい。すぐに解決できる姿勢が見えると、嬉しく心強く感じる。（久川委員） ・子どもたちにとってこの施策の一番のポイントは持続可能な切れ目のない支援である。関係部協が連携して支援を行うべき。（神谷委員） ・子ども・子育て支援事業計画における放課後児童クラブはの表記について、クラス数、一日当たりの登録人数、年間の利用人数、学年における利用割合を追記してはいかがか。（百田委員） 	<p>p38「計画策定の視点」に「多様な主体の参加と連携」という項目を追記しました。</p> <p>p38「計画策定の視点」に「子ども主体の実現」や「多様な主体の参加と連携」という項目を追記しました。P125にコラム「コレクティブ・インパクト」とp132コラム「持続可能な開発目標（SDGs）」を追記しました。</p> <p>放課後事業健全育成事業の事業計画について、放課後児童クラブと放課後KIDSルームの利用率を追記しました。</p>